

条幅部自由参考

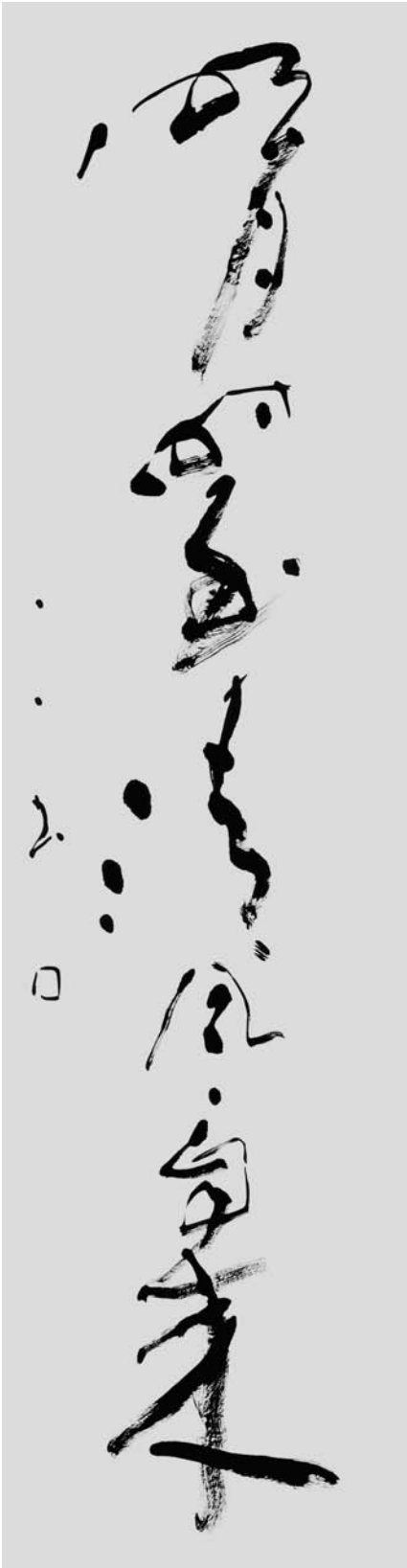
12月15日正午必着

明石春浦先生書



清霜碧澗松聲靜。急雨丹峰鶴唳多（吳兆騫） 秋山樓觀

明石幸子書



名月時至、清風自來（司馬光）

名月のぼり、涼風はどこからともなく吹き来る。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

以_レ風鳴_レ冬 (韓退之)

風を以て冬に鳴る

冬の風が強く吹く。

今宵對_レ雨娛_レ殘歲 (顧璘)

今宵雨に対して残歳を娛しみ、明日人に逢うて去年を説く。

こよいは雨をききつつしみじみと歳晚を送るが、一夜明ければ、それも去年のこととして人に語るのであらう。

送友人尉蜀中 (徐晶)

友人の蜀中に尉たるを送る 徐晶

故友漢中尉 請爲西蜀吟

故友 漢中の尉 請う 西蜀の吟を為さん

人家多種橘 風土愛彈琴

人家 多く橘を種え 風土 琴を弾ずるを愛す

水向昆明闊 山通大夏深

水は昆明に向かつて闊く 山は大夏に通じて深し

理閑無別事 時寄一登臨

理閑にして 別事無くんば 時に一登臨を寄せよ

わが庭に松葉牡丹の赤莖のうつろふころは時雨降るなり (島木 赤彦)



歲晚各離家。

憐兄去路賒。

書來約歸近。

同看故園花。

(高青邱)

三浦士岳先生書

半紙部規定課題A

12月15日正午必着

心 寂
印 冥
傳

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

12月15日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



西郊蘭若

羊士諤

雲天宜北戸

塔廟似西方

林下僧無事

江清日正長

石泉盈掬冷

山實滿枝香

寂寞傳心印

無言亦已忘

西郊の蘭若

羊士諤

雲天 北戸に宜しく

塔廟 西方に似たり

林下 僧事無く

江清くして 日正に長し

石泉 掬に盈ちて冷たく

山実 枝に満ちて香し

寂寞として 心印を伝ふ

無言 亦た已に忘る

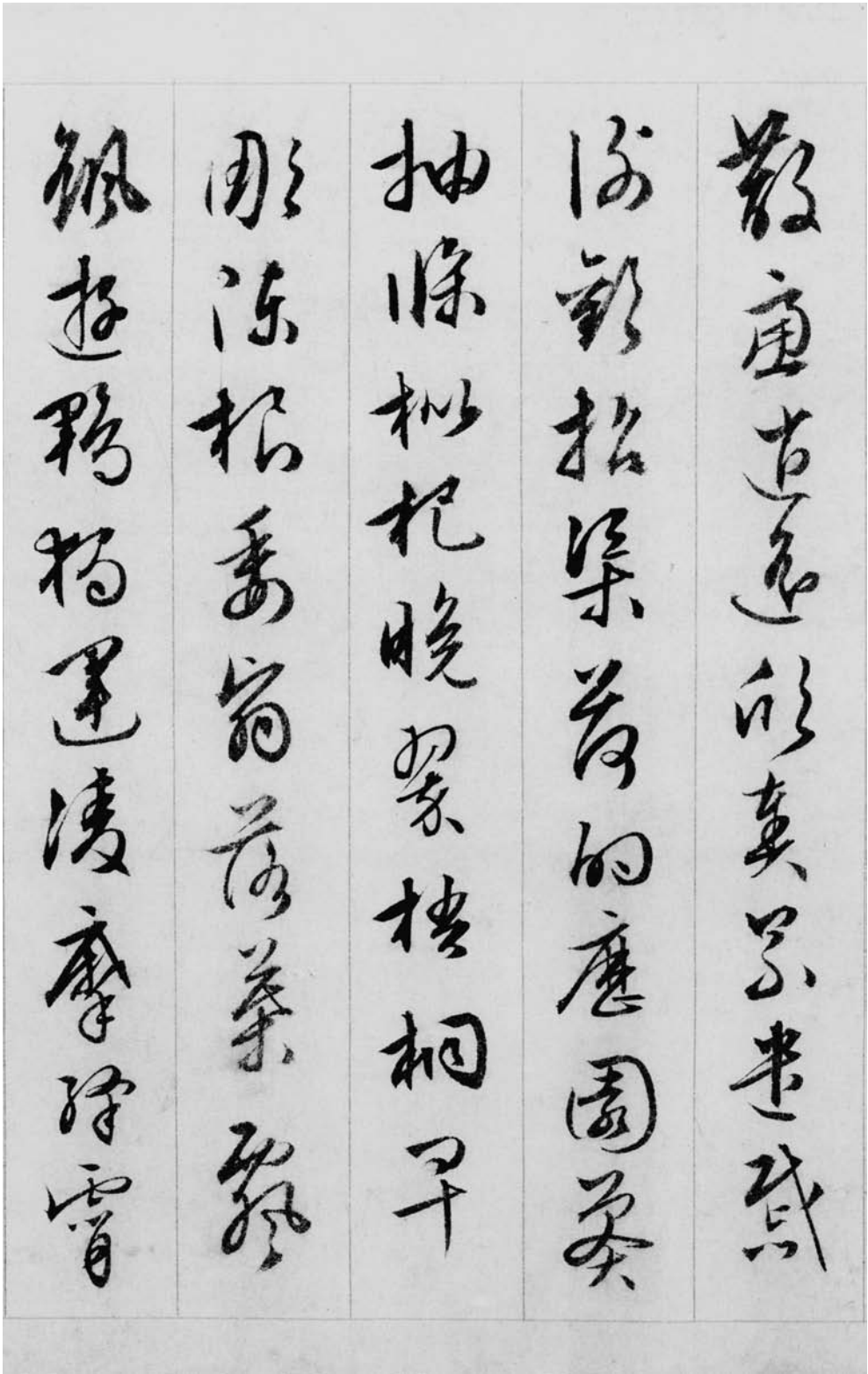
北向きの戸を開けば、雲たなびく空のまことよろしき景色 堂塔のたたずまいは、まるで西方浄土のよう

林の下に、僧たちは何の俗事もなく 江は清く澄んで、日は今や暮れなすむころ

岩石の間にわき出る泉、手にいっばいにすくえばひんやりと冷たく 山中の木々は、枝にいっばいに実をつけてかぐわし

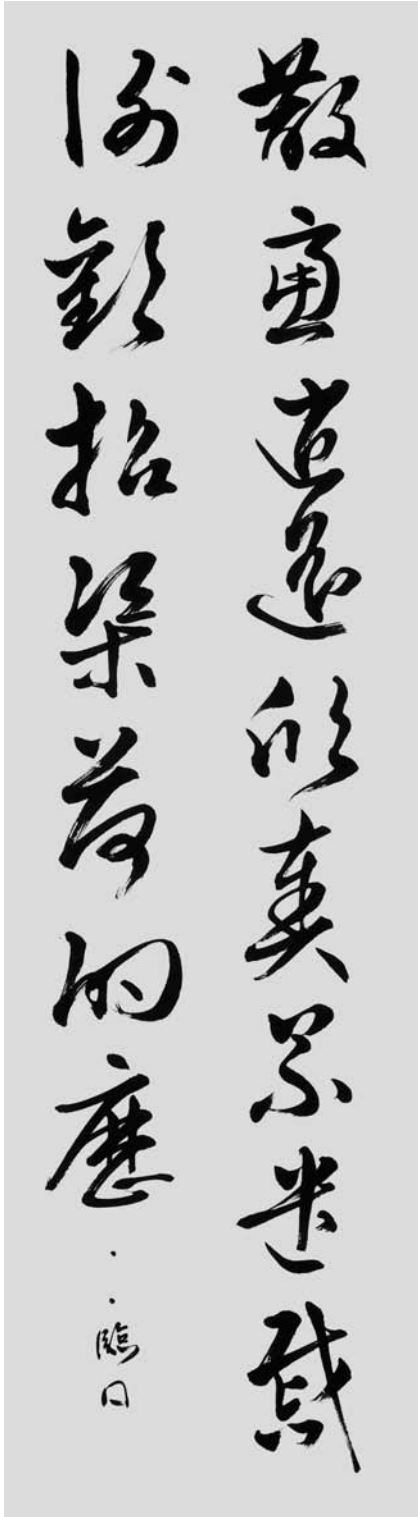
い ひっそりとしずかに、仏心のしるしを伝え、ことば無しということすらをも、もはや忘れてしまった

條幅部半紙部臨書課題

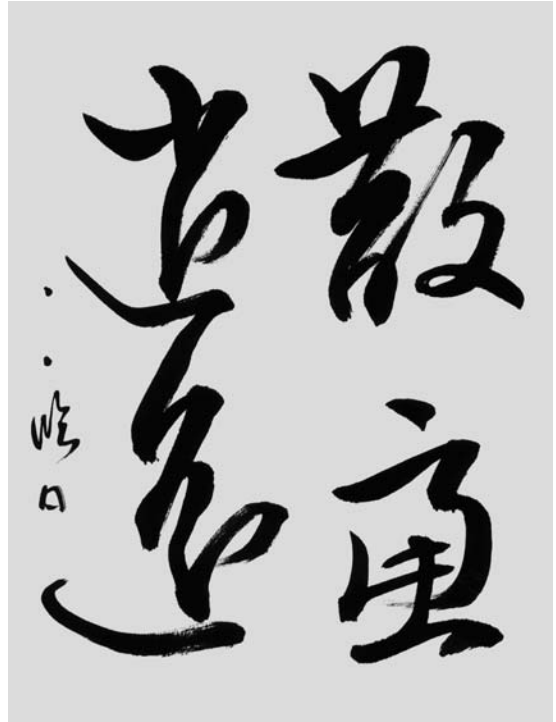


散慮逍遙。欣奏累遣。感謝歡招。渠荷的歷。園莽抽條。枇杷晚翠。梧桐早彫。陳根委翳。落葉飄飄。遊鷗獨運。凌摩絳霄。
 慮いを散じて逍遙す。欣び奏まり累いを遣り、感みを謝して歎び招く。渠荷は的歴として、園莽は条を抽んず。枇杷は晚く翠に、梧桐は早く彫む。陳根委翳あり、落葉飄飄す。遊鷗は独り運り、絳霄を凌摩す。

12月15日正午必着



おも
 慮いを散して逍遙す。欣び奏まり累いを遣り、感みを謝して歛び招く。渠荷は的歴として、



おも
 慮いを散して逍遙す。

明文徵明・行草千字文卷

文徵明（一四七〇～一五五九）は、揚子江下流域の蘇州の生まれで、明代中期を代表する文人である。宋・元の時代以来、揚子江下流域は主要な米産地で、その中心をなすのが蘇州であり、明代になると絹織物や綿花の産地としても栄え、豊かな経済性に富んだ地域であった。そんな風土の中ではおのずと文化も栄え、すぐれた文人を輩出した。

文徵明の少年時代は特に秀でた子供ではなかったが、父・文林の同僚や友人に当時の第一流の巨匠がおり、彼らに師事して詩や書画を学ぶことができたこと、生来の生真面目な性格と根気強さで、基礎から築きあげていく努力を重ねて、文人としてのめきんでた才能を身につけていたといわれている。

明代の書家達は復古主義を標榜し、元代に一世を風靡した趙孟頫の書を通して王羲之の典型を学ぼうとしたが、文徵明は、さらに直接的に王羲之に肉迫しようとした。また、単に羲之に追随するだけにとどまらず、他の色々異なった書法を学び、それを消化して自分の書を変化させていった。

彼は天才的能書家ではなく、たゆまぬ習熟と工夫によって大成した。決して独創的で型破りな面白味はないが、一点一画をゆるがせにしない伸びやかで清く澄んだ筆致は、謹厳さときめの細やかさを感じさせる。

文徵明は九十歳という長寿であったが、少年時代から千字文を日に十本ずつ書いて書の修練にはげんだといわれ、長い一生のうちにも多くの千字文を書いたに相違なく、この行草千字文もその一つである。（春濤）

12月15日正午必着

教育部毛筆



けい

えい

中学一年

雨宮春聲先生書



こんじゃくものがたり
今昔物語

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



ゆう
有

のう
能

小学五年

藤井良泰先生書



とう
登

ちょう
頂

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

12月15日正午必着



あ ず き
小 豆

小学三年

細谷春誠先生書



りゅう こう
流 行

小学四年

榎戸春龍先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ぬ し 小学一年・幼年



おお だま 大 玉 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

藤田幸春先生書

教育部硬筆

ペン字部

つことは大切で	思いやりの心を持
---------	----------

小学五年

しい山脈が続いている	雪と氷におおわれた険
------------	------------

小学六年

りに冬の訪れを感じる	北国から届いた初雪の便
------------	-------------

中学

世界共通のものである	平和を求めらる人々の心は
------------	--------------

一般(級位)

山おろしの梢の雪を吹くたびに一くもりする松の下陰(京極為兼)

びにアツクする松の下陰	山おろしの梢の雪を吹くた
-------------	--------------

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

に	ひ
	ろ
お	は
に	で
ご	げ
っ	ん
こ	き

幼年

に	町
	は
つ	し
つ	ろ
ま	い
れ	ゆ
た	き

小学一年

な	も
雪	み
が	の
ま	木
い	に
ち	
る	こ

小学二年

れ	寒
が	空
と	を
ん	
で	鳥
い	の
る	む

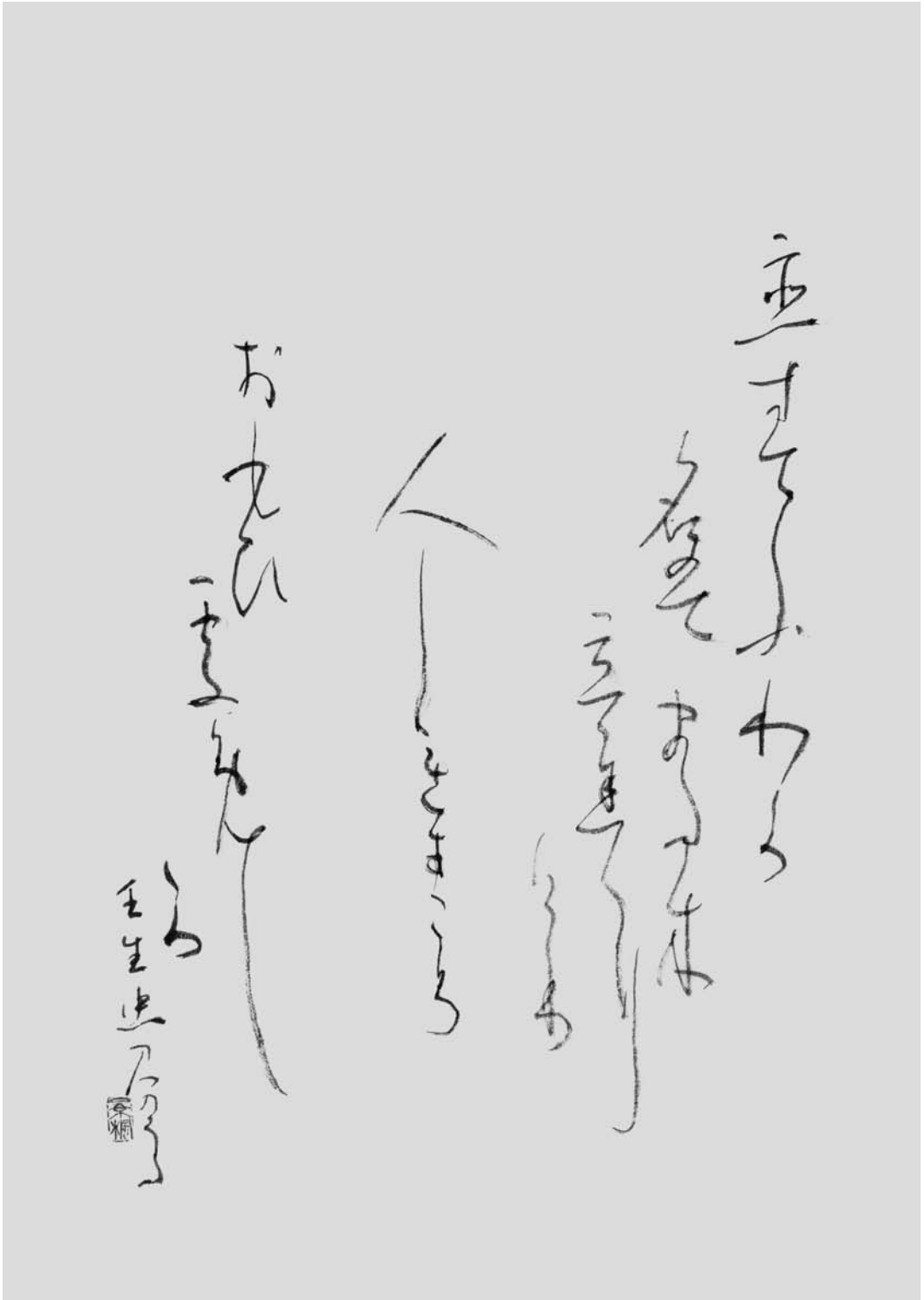
小学三年

を	な
ふ	み
ん	木
で	道
帰	の
り	お
ま	ち
す	葉

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

恋すてふ

す(ちよう)

わが名はまだき

可 盤

立ちにけり

選 耳介利

人しれずこそ

連 寸

おもひそめしか

處 免

可

(壬生忠見)

みぶのたみ

恋をしているという私のうわさは、早くも広まってしまったことだ。だれにも知られないように、ひそかにあの人を思いはじめたばかりなのに。